

上手にカフェ・・・いや、喫茶店らしき建物とその前のテラス席。女が一人、テラス席に座り、そこから見える小道を挟んだ公園を見ている。シーソーとジャングルジムと、顔出しできるパネルのような遊具が見えるがテラスから公園を見ている女の表情は何えない。子供の遊び声が聞こえるその公園の方をずっと見ている。テーブルにはメニュー表と、飲みかけのコーヒーと、読みかけの文庫本。それには手を付けず、女はただ、公園を見ている。

時間が流れ・・・

女（かなこ）が一人、公園からその喫茶店を見ている。

かつて自分が座っていたテラス席を・・・

店からテラスに出る引き戸は閉じられ、テラスのテーブルに何も置かれていない。閉まっているよう。

その公園にも人気がなく・・・遠くからパトカーの音。

フト我に返り、かなこはあたりを見回す。

鞆からスマホを取り出し、誰かにかけながら喫茶店の方へ・・・

誰も出なかったようで、引き戸や、小窓から店の中の様子を伺いながら、今度はメーブルを打つ。中にも誰もいないのか、出てくる気配がない。

一方下手の公園に、かなこの様子を伺っているサングラスの人影（日下）が・・・

かなこ、テラスのテーブルに座ろうとすると・・・パトカーの音が聞こえ、その動作は止まる。

そして、かなこはそのまま店と公園の間にある中央奥の道へ去る。

かなこが姿を消すと、遊具に隠れていた日下が姿を現し、かなこが去った方を見送り：喫茶店の方へ、引き戸にピッタリとくっついて中を覗いてみる。

今度はその日下を公園から買い物袋を提げた人が良さそうな中年の男（莊司）が不審そうに見ている。

日下 (気づかず中を見ている)

荘司 すみませんっ

日下 (ハッと)

荘司 なにか

日下、引き戸から離れ、荘司を見て、安心したようにテラス席へ。

荘司 (その日下を不審に思い) なんですか

日下 …え

荘司 え

日下 いや…え？あゝホラ

日下、サングラスを少しずらして荘司に自分の顔を見せる。

荘司 …なんですかっ！

日下 あの…ああ、いや

荘司 え

日下 (諦めて) いや

日下、道の方へ去る・・・のを不審そうに見送っていた荘司

荘司 えっ…

その時また、遠くでパトカーの音

荘司 え！？

何かを思いついた荘司、追いかけてようとして、買い物荷物をシーソーのあたりへ置き、先回りするため先ほどやってきた公園の方へ戻っていく。

荘司 おいっ！おいっ！！おいっ

荘司が去った後、しばらくして：喫茶店と公園の間の道から、これまたサングラスをした男(吉田)がスマホを片手に現れ、喫茶店を見ている。

吉田 あれ

引き戸の方へ行き、さきほどの日下と同じような態勢で中を覗いている。

と、息を切らした荘司が公園の奥から戻ってくる。

どうやら逃げ切られたよう・・・

置いていた買い物袋を拾おうとして、喫茶店の吉田に気づく、あまりに同じ様子に

日下が戻ってきたのかと驚くが・・・

荘司 え：

吉田 (気づかず中を見ている)

荘司 すみません

吉田 (ハッと)

荘司 やっぱり

吉田 え

荘司 違う

吉田 え

荘司 さつきと

吉田 さつき

荘司 …仲間

吉田 …誰が

荘司 …

吉田 誰の

荘司 …

吉田 え

荘司 …集団？

吉田 えっ(周りを見渡す)

荘司が何故か興奮し鼻息が荒くなってくるので気味悪くなった吉田…奥の道の方へ

荘司 おいっ！！

吉田 は？（言われて思わず走り出す）

莊司 くっ

莊司、買い物袋を放り出し、またもや追いかける。今度は吉田が去った奥の道へそこへ：今度は若い男（小野）が公園の方から現れる。英字の書かれたTシャツを着ていて、ジーンズも何やら装飾が入ったちよつとうるさい感じの見た目。

小野喫茶店を確認し：その、うるさい見た目に更に：おもむろにサングラスを取りだしかける。

しかし店の様子を見て：

小野 アレ

店の方へ行こうとして、買い物袋が乱暴に放置されているのに気づく。

小野 アレ…え？

小野、落ちていたリングを拾い：喫茶店の方を見て

小野 え…

パトカーの音が聞こえる。

慎重に、テラスから店へ通じる引き戸へと行き、中を覗く。

そこへ、公園の方からまた別の男がコソコソとやってくる：ひかるだ。

ひかる （転がる買い物袋を不思議そうに）？

その先では小野が、リングを片手に引き戸から中を覗いている。

ひかる …!!?

喫茶店を覗く小野の様子を、公園の遊具の影から慎重に伺うひかる。

奥の道の方から、女がやってくる。ボサボサの頭にテキトーな服、眼鏡、手には財布のみの千寿子。

千寿子、遊具の陰で様子をうかがっているひかるに気づく。

千寿子 …!?

素早く遊具の蔭に身を潜め、ひかるを観察。

ひかるはそんな千寿子には気づかず、喫茶店の前の小野を見ている。

千寿子、ひかるをしつかりと確認してから、来た道を引き返す。

息を切らした荘司が公園の方から戻ってくる、どうやらまた逃したよう。

荘司 (すごい息が切れてる) ハア…ハア (買い物袋を見て、隠れるひかるを発見) …?

あがる息を必死で抑えながら、ひかるの方へ距離を詰めていく荘司

しかし、その抑えきれない息の気配でひかるは振り返る

ひかる …??

荘司 (ひかるを刺激しないように、その買い物袋は自分のものとジェスチャー)

ひかる (理解したように、買い物袋を置く)

荘司 (不振がって距離を詰める)

ひかる (距離をまた取りながら、喫茶店を覗く小野の方を指して、あっちが怪しい説明する)

ふたり、結果としてシーソーの周りをぐるぐる回りながら一連のやりとりを。

荘司 (お店の方を見て、小野が何者かとひかるに聞く)

ひかる (自分もわからないと、通りかかったら居たと)

荘司 (小野の様子の方を怪しむ)

ひかる (サングラスをかけていることを報告、リンゴを持っていることも)

荘司 (アレは自分が買ったリンゴだと主張)

ひかる (そう!だから怪しいと再び主張)

と、そのやり取りをしていると不意に、小野が動く。

とっさに目の前のシーソーに乗る、ひかると荘司。

小野、その音に気付いて公園の方を振り返り、おっさん二人のシーソーに気づいてギョッとする。

ひかる (あまり口を動かさずに) こっち見てるかもしれないです

荘司 やめると怪しまれますよ

二人、シーソーを続ける。

小野、不思議そうにその様子を見ながらも、引き戸横のベンチに座ってスマホを取り出す。

そこへ公園の方からやってくる、ももよ。シーソーに乗っている荘司を見て一瞬止まるが……

ももよ おはようございます。

荘司 おはよう

ももよ、通り過ぎてお店の方へ。

荘司 え、あれ？

ひかる そっちあぶないっ！

ひかる、ももよを止めようとしてシーソーを飛び降り……結果、その反動でお尻を強打し、人知れず打撃をうける荘司。

ももに気づいたベンチにいた小野は、立ち上がって待っている。

ももよ、小野には気を留めず、カギを取り出して引き戸を開ける。

小野 あ

ももよ はい？

小野 あ、今から？ (お店あけるの)

ももよ いえ

小野 いえ？

ひかる え？？あれ

二人が話をしているのを、不思議そうに公園から見ているひかる。

小野 あ

ももよ 何

小野 これ（持っていたリングを差し出す）

莊司 （そのリングを見て、お尻の痛さに耐えながら）それ！僕が買ってたやつ

ももよ え

小野 落ちてたから拾った、俺が

ももよ え

莊司 え、知り合い！？

ひかる え

ももよ いや、知り合いって言うか

小野 …それは、な？

ひかる 怪しいねんつ、中をジロジロと、さつき

小野 いや、休みじゃないはずやのに休みみたいやったから

莊司 え

小野 定休日は水曜日やのに

莊司 何で知ってる！？

ももよ （冷静に、莊司に教える）お客さん

莊司 え

ももよ お客さんですよ

莊司 え

小野 ちよっと（莊司に）で、ちよっと（ももよにも）

莊司 あ、ごめんなさい…

ももよ ありがとうございます（無機質に、小野からリングを受け取って中に入ろうとする）

小野 あ

莊司 ももちゃん、今日は

ももよ とりあえず仕込みの準備

莊司 そんなん僕しとくし

ももよ 決まってることなんで

莊司 え

ももよ やらんと気持ち悪いし

莊司 ホンマ？

ももよ 家おつてもなんもすることないし

莊司 でも明日も開けられるかどうか

ももよ 日持ちするやつとか、やりますんで

愛想なく、中へ入っていくももよ。

ひかる 真面目な子ですね。

莊司 ええ

小野 (照れながら) 知り合いつていうか、お客さん…つていうか

莊司 あの、すみません、ホンマに。ホールは彼女に任してしまつて。え、じゃそちらも？もしかして？

莊司、ひかるを振り返る。

莊司 え…お客様ですか？

小野 え、知らんのにシーソー？

莊司 どなた…

ひかる あ、僕も客です。

莊司 うわあ…ごめんなさい、またどなたとか聞いてしまつて

小野 俺は会つたことないですけどね、俺結構常連ですけどね。ここは、はいここ1年半くらいは

ひかる あ、僕がこのお店に来たのは10年以上ぶりくらいなんで

小野 じゅ…

莊司 え、そうなんですか！？

ひかる ええ、久しぶりにこっち方面に来る事があつて、せっかくやから、ここでちょっと人と会う約束を。

莊司 10年

ひかる 年配のご夫婦でされてませんでした？

莊司 はいはい、父と母です。

ひかる あ…あ？あれ、いま、あ…

莊司 父が6年前に身体を悪くして、田舎に戻つたんですよ。母と。

ひかる そうやったんですか…え、それでは

莊司 僕が継いで、一人で。

小野 さっきの子がバイトで。ももちゃん

莊司 そうそう。

ひかる うわあく会いたかったなあ、この焼きめし好きやったんですよ。

莊司 ありがとうございます。一応僕が味を引き継いでますよ。

ひかる おっ！あ、でも今日お休み？

莊司 あく…でも開けますよ。

ひかる え

莊司 そんな、久しぶりに来てくださったのに。

ひかる でも

莊司 人と会うってさっき

ひかる はい、ここでね、久しぶりになって

莊司 じゃあ開けます開けます。大丈夫ですよ。別に閉めたくて閉めてるわけじゃないので。

ひかる あ…じゃあ連絡しますね。さっきここ来てたみたいで、閉まってるかもって連絡くれてたんですよ。9

ひかるスマホを取り出しながら、奥の道へ一旦去っていく。

小野 じゃあ俺もせっかくやし…何かちょっと

小野が喋っている途中で莊司、買い物袋の整理をして店の中にさっさと消える。

小野 ま、ちょっと…か（誰も聞いていないその言葉を、独り言のようにごまかす）

また、パトカーの音がする。

小野、ベンチに座ってスマホを触っていると、エプロンをしたももよが出てくる。
持ってきた布巾でテラスのテーブルを拭き、メニュー表を置く。

小野 あ、開けるって？店長

ももよ はい

小野 じゃあ俺も…

ももよ … (小野を見つめる)

小野 え

ももよ … (見つめたまま)

小野 いや、え

照れながら、立ち上がってゆつくりとももよに近づき、サングラスを外す小野。
その時、吉田が店の中から現れる。

小野 おちよっ!!

慌ててももよから離れる小野。

吉田 あれ？やっています？

ももよ はい

吉田 良かったあ。待ち合わせをね、人として、さっきこっちからきたら閉まってる

ももよ あ、こっちは裏で。すみません、開けたのも今で

吉田 あ、すみませんオープン時間前でした？

ももよ 大丈夫です。あの、中に人…店長いませんでしたか

吉田 いや、誰も

ももよ すみません、今行きます。

吉田 お願いします。あ、でも急がないんで。

ももよ ありがとうございます。

言って、吉田は再び店の中に戻っていく。

小野 さっきの… (「続き」を…いい雰囲気だと思っていた小野は続きを要求)

ももよ え

小野 あくさっきの「人」、よく来る人？

ももよ 初めて。多分

小野 そっかそっか

ももよ (また小野の方をじっと見ている)

小野 え…

ももよ まだ

小野 あ…（ももよに近づく）

ももよ 注文

小野 え

ももよ 注文聞いてないから

小野 あ、えっと、カフェラテ。アイスで

ももよ アイス、ラテ

ももよ、去りかける。

小野 あ、え

ももよ （振り返る）ラテの方ね。ラテ。

小野 あ、やっぱオレ。アイスカフェオレ。

ももよ アイス、オレ

小野 オレ、うん。アイス、オレ。

ももよ はい

ももよ、去る。

小野 愛す、俺。（笑う）

小野は引き戸横のベンチに座ってスマホを取り出す。

すると、奥の道の方から日下が走ってくる…時折来た方を振り返りながら、公園の方へ走り込み、隠れながら、下手の公園の奥の方へ去っていく。

小野 …？

パトカーの音がまた…立ち上がった小野は、日下が逃げるように去った方向を目で追い、ちよっと不穏な空気を感じる…と、ベンチ横の引き戸が開き、店から電話をかけながら吉田が出てくる。吉田は小野には気づいていない。

吉田 (スマホに) そうそう、開いててん。開いてたって言うか、開いた。…そう。何か、そう。俺が来たときは。うん。大丈夫やで。空いてる空いている。開いたばかりやからかな。…うん、大丈夫、待ってる。はいはい。

スマホを切りつつ、ガラケーを取り出し別の場所へすぐさまかける吉田。
その様子に小野はまた不穏なものを感じている…

吉田 (ガラケーで) …あ、もしもし？俺。オレオレ。あれ、どうなった？ちゃんと振り込んでくれた？…せやる？まだやる？わかってるねんこっちは、先週末までって言うてたやん頼むでホンマ、頼りにしてるねんから、って言うかおらんねんから他に。俺には。おらんねん、他に！言うたやろ何回もっ！助けてやっ。頼むわ…ホンマ。知ってるやろ…うん…うん。ありがとう。ホンマ。

時に猫なで声で、時にキツイ口調になる吉田…聞いていた小野、途中からちよっと嫌な気配がして、ポケットからイヤホンを取り出し、つけ、音楽を聴いてるフリ。

吉田 (電話が終わり店に帰ろうと振り返り…ベンチに小野がいたことに驚き、動揺)…あの
聞こえてるか確かめる吉田。

聞こえてるけどイヤホンしているから聞こえてないよと、アピールする小野。

吉田 あの…(小野が反応しないので)…あの、聞いて…？

小野 (曲にのってる風) ヤッ(とか言ってみる) オウ

吉田 …うんこ

小野 ブッ(思わず吹き出し…たのをまた誤魔化して曲にのってる風を装う)…

吉田にしばらく見つめられていた小野、我慢の限界が来て、わざとらしく吉田に気づくフリ。

小野 あ(イヤホンを外しながら) ああ〜！すみませんっ。

吉田 面白い曲なんですか

小野 え

吉田 いや、何か笑ってるみたいやったから

小野 基本、笑顔なんですよ。

吉田 へえ…

小野 まあちよつとドラムの感じが面白っていうのもあったんで

吉田 何聞いてたんですか？ドラムの感じが面白ってどんな？

小野 親父の勝手に持ってきたんで、タイトルとかはちよつと

吉田 聞かせてもらっても？

小野 あ、いいですよ…

観念して渡そうとしたイヤホン…しかしスマホとは繋がっておらず、ジャックだけがポケットから出る…と、それを誤魔化すように

小野 ブルートゥース…。あ、いや、でも中耳炎ってうつるんですよ、確か

吉田 え中耳炎？

小野 でもよかったら（イヤホンを差し出す）

吉田 あ、いいわ。ありがとう。

小野 あ、でも今膿んでないんで

吉田 うん、大丈夫。（公園を見渡して）のどかなところやな

小野 それが、あれですネ取り柄っていうか、ええとこ

パトカーの音

小野 ま、今日ちよつとアレですけど

吉田 何やるさつきから結構

小野 あ、知らないですか？一昨日の事件

吉田 え、何やろ

ももよが店の外に

ももよ あの、はいりましたよ、ココア

小野 ココア

吉田 ありがとうございます。熱いうちにいただきます。

小野 ホット

吉田、ももよの後にお店に入っていく。

小野がしばらく見送っていると、今度は荘司がトレーを持って出てくる。

荘司 はい、アイスオレ、お待たせしました。

小野 え

荘司 え、ちやいました！？アイスオレと、ラテ？モカ？

小野 あ、オレです。や、いつも店長が持ってくることはないから

荘司 たまにやってるよ。僕も

小野 ええのに

荘司 え

小野 いえ

その時、公園の方から再び走ってくる日下。

小野 あ

荘司 あ

日下 (独り言) はきみうち…

日下、公園の方を振り返りながら、奥の道へ向かって追われるように走っていく。

荘司 知り合い？

小野 いえ、さつきも反対に逃げる…っていうか走っていったんで。ここのお客さんですか？

荘司 いや、それ僕ちよつとわからんのやけど、僕もさつき見て、この前でウロウロしてるとこ。だから。

何か怪しいって言うか

小野・荘司 …

奥の道の方を黙って見送る二人。と、またパトカーの音が聞こえる。

公園の方からかなこがやってきているが、気づかない二人。

かなこ すみません

小野 △□&%○\$%#!

莊司 おっ（と、軽い驚きの後小野のリアクションに驚く）

かなこ あ、ごめんなさい、急に話しかけて

莊司 大丈夫です大丈夫です。（小野に）大丈夫？

小野 （必死に取り繕いながら）え、別に。はい

かなこ 開いてるんですよね？お店

莊司 はい、開けてます

かなこ さっき通ったとき閉まってるって勘違いしてもて

莊司 あ、さっきは閉まっちゃいました、閉めてました。

かなこ あ、そうなんです。（腕時計を見る）

莊司 いえ、時間っていうより、この辺の店はちょっと一昨日から閉めてるんですよ。学校も今日はアレやっけ

小野 昨日と今日は休みって。多分、捕まるまで

かなこ え、捕まる？

莊司 見てません？ニュース。

かなこ え、なんやろ。こわっ

莊司 この公園とね、もひとつ向こう側にある公園で、事件っていうか。大人が子供を叩くって、はい、事件があつて

かなこ え：

小野 つねったって言うのもあったらしいですね

莊司 ああそうそう、一昨日と、昨日。それでここと向こうで、結局幼稚園の子と小学校の1年生やっけ、5人ほど

かなこ へえ…かわいそうに。すごいアレですか？怪我とか？

莊司 そこまでじゃないみたいなんですけど、やっぱり子供の方がショック受けてて

小野 何かね、サングラスかけた大人って言うのはわかってるらしい。ね？

かなこ サングラス

莊司 子供らのね、何か目撃情報で目も目の周りも黒いつて。

かなこ ああ

小野 小1ってサングラス知らなかったっけ？

莊司 人によるんじゃないかな。目の周りだけならね、パンダかなって思うけど。

かなこ (意味がわからず) え

莊司 え、目の周りがね、ホラ黒いって話

かなこ ええ…親御さんとかは見てなかったんですか

莊司 子供だけを狙ったみたいです。

小野 ビックリしたやろなくかわいそうに

かなこ (公園の方を見る)

莊司 子供にね、子供見てそんな気になりますかね、ホンマ

かなこ …ねえ

小野 ニュースにも一回、ちよつと流れたんですけどね

莊司 昨日、一昨日から結構騒がれてるんですよ、この辺じゃ。お巡りさんもめっちゃいるし

かなこ ええ…私、今この近所じゃなくて

莊司 あ、そうなんです。それでホラ、うちも閉めるか閉めないかって(店を指す)

かなこ あ、ここのお店の方

莊司 もうね、こんなじゃ公園も誰も来ないしね。開けてもって思ったけど。お客さんもボチボチ来てくれたりするんで

かなこ 私もです。久しぶりにここ

莊司 あ、そうなんです

かなこ 10年以上来てなくて

莊司 10年

かなこ お店変わったんですか？

莊司 いえ、その頃からですよ、うちが

かなこ 年配のご夫婦でされてませんでした？

莊司 はいはい、父と母です。

かなこ ああ。じゃ、今は

莊司 父が6年前に身体を悪くして、田舎に戻ったんですよ。母と。

かなこ そうやったんですか…え、それで今は

莊司 僕が継いで、一人で。…アレさっきもこんな話しませんでしたっけ
かなこ え、私は…

莊司 アレ？なんかめっちゃデジャヴでした。今。

小野 あ、俺も

莊司 すごいね、二人でデジャヴって

かなこ 似てるとか

小野 ちよつとちよつとちよつと

莊司 あ、僕もそれちよつと思ってた

小野 似てないわ

莊司 さすがに顔とちやうよ、背もこんなにちやうし。でも何か、うん

小野 ちよつとそれはええように言い過ぎでしょ

その時、奥の道からピンクのワンピースに着替え、大きなサングラスをかけヨガマ

ットを担いでやってきた千寿子。…公園にさきほどのひかるがいない…と、喫茶店

の方を見て思わず声が出る

千寿子 えっ

莊司 (気づいて) あ

小野 え？

かなこ (千寿子を見て) うわ

莊司 いらっしやいませ。え？どうしたんです？

千寿子 何が

莊司 何か普段と違うんで

千寿子 一緒や、別に。コンビニ行く恰好

莊司 ええええ

千寿子 なに

莊司 だって全然

千寿子 連絡もせんと

莊司 え、いや、別に今開けるって決めたんで

かなこ 連絡って、したらしたで絶対気持ち悪いとかいうやろ

莊司・小野 え？

千寿子 どうやろ

莊司 あ、え？お二人、え？？

かなこ ええ、言うてたここ来てた頃に

莊司 10年前。へ〜友達ですか

千寿子 ちやう

莊司 え

千寿子 こともないけど、それだけでもない。な

かなこ 色々です。色々。

莊司 いろいろ…

千寿子 複雑やねん

かなこ せやろか

千寿子 せや

ももよが、顔を出す。

ももよ 店長。(千寿子を見て) あ、こんにちは

千寿子 (サングラスを外してバックにしまいながら) どうも

ももよ 中、お願いします。

莊司 あ、ごめんごめん

千寿子 開けてんな、店

莊司 まあ、来てくれる人もいるんで。それにホラ、拳銃やら刃物やらってそういう話でもないからね、このは

かなこ でもなんかあったらねえ、今はうるさいから。

小野 それで学校とか、他のお店も結構休みでね

ももよ 迷惑な話

莊司 まあ仕方ないよね。ももちゃんもせっかく休みやったのにな

ももよ 休みでもすることないんで私

莊司 若いのに

ももよ もう来てもうてるし

莊司 でもももちゃん、今日誕生日やろ

ももよ え

千寿子 あ、そうなん

ももよ はい

小野 そうそう

かなこ (小野に) バイトさん？

小野 そう、はい。

莊司 ホラ、お祝いとか誰かと

ももよ (なぜかキツイ口調で) そんな人おらんで

莊司 申し訳なさすぎるわ、それは

ももよ 別に

莊司 ありがとう

ももよ …別に

ももよ、愛想なく店の中へ

莊司 怖いねん、ももちゃん

小野 嫌われてるんちやいます

莊司 かなあゝ

千寿子 …

かなこ …

莊司 何かしたんかな、嫌われるような事

小野 いや、あの年代の女子はおじさんってだけでね、そういう、ね

莊司 そりやでもしやーないわ

ももよ、再び引き戸を開けて

ももよ 店長

莊司 あ、はいはい、ごめんごめん

莊司、中に入っていく。

ももよが引き戸を開けて、待っている。

ももよ 皆さん外ですか

千寿子 暑いし、またすぐ入るけど…

かなこ (ももよに) どこがええの？

千寿子 ちよっと

ももよ (!?) 何ですか

かなこ いや、どこがええんやろって

千寿子 そりゃうちらにはわからんことがあるんやろ。知らんけど

小野 何です？

ももよ 知らん

ももよ、ぴしやりと引き戸を閉めて中へ。

かなこ かわいいなあ、照れて

小野 え？いまの？照れて??

千寿子 …一人？

かなこ え

千寿子 聞こえてるやろ

かなこ 一人(言いながらスマホを取り出し操作) まあ久しぶりにちよっと、って思ってた。

千寿子 実家に

かなこ 私は一昨日から

千寿子 私は？

かなこ 変？

千寿子 いや、他にもおるみたいない方かなと思って

かなこ 私は、一昨日から実家にいます。ってことやん。

千寿子 何、スマホ

かなこ え、何が

千寿子 人と喋りながら

かなこ ごめんごめん。

千寿子 なあ（小野に）？

小野 え、あ

かなこ ちよつとさつき来てた仕事のメールに返事しとかなって

千寿子 今？

かなこ 思い出したんやん

千寿子 急に？

かなこ なあ（小野）？

小野 え

かなこ あるよ、そんななんぼでも

という会話の中、公園から姿を現したひかるが、ラインが来たことに気づいてスマ

ホを確認：したと思ったら、すぐさま公園にある遊具に身を潜め、千寿子に気づ

かれないように去っていく。

それを見ていた小野…。

千寿子 なんでその子に聞くんよ（小野に）なあ？

小野 あ…：

千寿子 何？

小野 なんもっ！！

千寿子 声よ

小野 あ、すみません

千寿子 別に用もなく来たってこと？

かなこ まあ

千寿子 ふーん。元気なん

かなこ 見ての通り、あんたは？

千寿子 一緒。

かなこ まだ、あそこで仕事

千寿子 せや

かなこ ふーん

千寿子 元気やで

かなこ え

千寿子 来年定年

かなこ ああ

千寿子 まあほとんど会わへんから、全然知らんけど近況とか

かなこ 別にええし

千寿子 連絡とか取ってるの

かなこ 全然

千寿子 ふーん

かなこ …そっちは

千寿子 取ってるって聞いている？

かなこ 聞いてない

千寿子 そう。取ってない。

かなこ ふーん

千寿子 …結婚は

かなこ だれ？どっち

千寿子 どっちも

かなこ 私はまだ、あの子もまだ

千寿子 そうなんや、してるもんやと思ってた

かなこ 誰？私？

千寿子 いや、あんたは無理やろ

かなこ どういう意味よ

千寿子 だってあんた15年前で、別れた時41やろ

かなこ せや

千寿子 そこから女が再婚って中々やで

かなこ そんなことないわ

千寿子 それは出来る人が言うことや（小野に）なあ？

テラスのテーブル席に座るかなここと、公園側にいる千寿子の舌戦に時折思い出したように巻き込まれる小野：

小野 もうそれはちよつと返事無理です

千寿子 ホラ

かなこ 何よホラって

千寿子 返事無理ってことは、ええ返事出来へんってことやん

かなこ あんたかてまだやろ

千寿子 私、あなたの11下やから

かなこ 45やないの、そこからかって無理やろ、41から無理って言うてて

千寿子 再婚の話してるんやん、私は初婚

かなこ そっちの方がどないやろ45で一回もて

千寿子 いやいやサラってことやから

かなこ サラではない

千寿子 戸籍上はサラや

かなこ 再婚みたいなもんやない

千寿子 みたいなもんってなによみたいなもの

かなこ 直前までいってたやない

千寿子 直前で思いとどまれたんや

かなこ 自分からやめたみたいな言い方

千寿子 なによその言い方

かなこ だってそうやから

千寿子 そうや、そうやで。結婚直前までいってダメになりました。私はね

かなこ …ごめん

千寿子 あんたが言うたんやん、結婚直前までいって婚約破棄になりましたよ。

かなこ ごめんて

千寿子 あんたの弟にな

小野 (なるべく存在感を消そうとしていたが、思わず声がでそうになる)

かなこ :

千寿子 そこは謝らへんねんな

かなこ 私が謝る事じゃないから。自分が言うたことは謝る、でもそっちは謝らへん。

千寿子 あんたのそういうところちゃう

かなこ 何が

千寿子 離婚

かなこ :

千寿子 私は自分の言うたことも謝らんからな

かなこ 謝っていらんし

小野、耐えられなくなり引き戸を静かに開け、店の中へと…

千寿子 ホンマに一人で来たん

かなこ なんで

千寿子 さつき、ひかる君らしき人を見た。コンビニ行く途中ここで

かなこ 似てる人ちゃう

千寿子 中々おらんと思う

かなこ おるよ

千寿子 :

かなこ もし来てたとしても知らん。私は一人で来たから

パトカーの音

千寿子、間合いをつめて、テラスのテーブル席に座るかなこの傍まで来ている。

かなこ 凄いな

千寿子 え

かなこ パトカー

千寿子 ああ。子供も全然昨日今日は見いひん

千寿子も、かなこの向かい側の椅子に座り、公園の方を見る。

二人でテーブルを挟んで公園の方を見ている…

かなこ 何で叩くんやろな

千寿子 うん

かなこ そんな小さい子をな

千寿子 ホンマ

かなこ なんで子供を叩くとか、よその子やろ

千寿子 せや

かなこ なんで叩くんやろ

千寿子 わからん

かなこ わからんけど

千寿子 …

かなこ わかる。…いや、わからんけど、わからんねんで

千寿子 わかる

かなこ なにが

千寿子 わからんけどわかるってのが、わかる

かなこ ま、あんたはいらんねんもんな

千寿子 でも叩こうとは思わんで。思わんけど

かなこ わからんけどわかるのは、わかる。

千寿子 うん。わかる。(かなこを振り返り)…コレ、知らん人聞いたらかなりヤバい会話と思われるで

かなこ うん、ヤバい

千寿子、店の引き戸を気にしながら公園の方へ移動しながら…

千寿子 言われるもんな、いや、言われへんで、絶対口にはださへんけど、空気だされる。子供おらんからわ

からんって

かなこ そうそうそうそうそう

かなこもそれについて、公園の方へ。

千寿子、シーソーにまたがる。

かなこ おらんからひがんでるとも言われる。いや、言われへんで、そんな顔するねん
千寿子 そうそうそうそう

かなこ、反対側にまたがる。

二人、いつしかシーソーを。

かなこ でもそれこつちも言うたら負け、みたいなどこあるから口にはせん
千寿子 出来るかいな、すごい空気になるで
かなこ そうそうそうそう

莊司が、引き戸から顔を出して：テラスにいない二人：と、公園を見る。

莊司 え、全然大丈夫やで

小野 (後ろから顔を出し) え、だって

莊司 ホラ(小野を手招き)シーソーしてる

小野 えっあんな陰悪やったのに

莊司 そんなもんやって女の人って

小野 わかったような

莊司 こう見えて、バツ3やで僕

言って、店の中に莊司が入っていく。

小野 えっ3!?!いや、それわかってないからちやうん

閉まってしまった引き戸を見つめる小野。

かなこ 私、今年中に、決まりそうやねん

千寿子 えっ

シーソーから腰を上げ立ち上がる千寿子。その反動でかなこお尻を強打。

かなこ いったく！ちよつと急に止まらんといて

千寿子 なに。え、決まるって。結婚？再婚！？

かなこ わざわざ言い直さんでも。まあ、そう。

千寿子 え、ちゃんと歳言うた？自分の。56って。

かなこ 言うたわ言うてるに決まってるやろ、結婚するっていうてんに

千寿子 歳ごまかして騙してたりせんやろな、あんた

かなこ するかいな

千寿子 まあ誤魔化すにしても限度があるわな

かなこ ホンマ失礼やな。向こうは初婚で、小さいけど輸入雑貨扱ってるお店やって

千寿子 経営者？え？いくつ年上やろ？年上で、おじいちゃんやん

かなこ ええ加減にしいや。下や、下。

千寿子 えっいくつ！？

かなこ 8つしたやから48。

千寿子 え、48！初婚の経営者…前科あるとか？

かなこ あんたな

千寿子 いや、あんたそれ騙されてるぞ

かなこ 私もそう思った

千寿子 ホラ

かなこ だけどちやうねん

千寿子 いやいやいや、わからんってるねんて

かなこ お金の話なんて出たことないし、向こうがいつも払ってくれる

千寿子 ヤバイヤバイ、チェーン店の居酒屋の細かい4千円5千円で信用させといて、

かなこ もっとええとこ連れて行ってもうてるわ

千寿子 ほんで数十万数百万を引き出しよるねん。それが手口んやん。

かなこ 2時間ドラマ見過ぎや

千寿子 2時間ドラマでもそんな話やらんわ、それぐらいわかりやすい詐欺やん

かなこ もうやめて

千寿子 あんたのためやん

かなこ ちやうやろ

千寿子 詐欺ちゃうとしても、絶対後で子供が云々って言われるで、今からそんな年下の男
かなこ 子供の話なんか出えへん

千寿子 …話してへんの

かなこ 向こうもわかってるわ

千寿子 男はな、50でも60でも子供作れんねんでっ

かなこ …だから

千寿子 …って話。

かなこ なにそれ

千寿子 一般的な事実を言うただけ。絶対詐欺

かなこ 決めつけんというて

千寿子 100パー

パトカーの音

千寿子 ホラ、あんたの彼氏捕まえに来た

かなこ 小学生みたいなこと言わんというて

パトカーの音どんどん増える

かなこ いや、なに

千寿子 ホンマに捕まえに来たんちゃうやろな

かなこ やめてよ

店の中からももよが出てくる。

ももよ 犯人が見つかったって

千寿子 えっ!? どういうこと

かなこ 良かったやん

小野 捕まったん?

ももよ ううん、逃げてるらしい、さつき表から警察の人が来て、気を付けてって

小野 ちよつとちよつと。え？逃げてる？さつき…見た怪しい人サングラスかけて…あいつやったんかな

その時、吉田が店の中から出てくる。

吉田 店長さんが呼んでるよ。

ももよ すみません。

かなこ (吉田を見て) 吉田君！

吉田 かなこさん！

千寿子 え

吉田 さつきからラインしてるのに全然既読にならへんから

かなこ ああごめんごめん。ちよつと久しぶりに会って話し込んでもて

千寿子 …(吉田を訝し気に見ている)

吉田 (そんな千寿子の視線に気づいて) かなこさんの…地元のお知り合い？

かなこ うん、まあそう。前の職場が一緒で。まあ他にも色々

千寿子 腐れ縁です。

吉田 そうなんです、お世話になってます。吉田って言います。

千寿子 笑顔が嘘くさい

かなこ ちよつと！

吉田 え？なんです？でもよく言われます、それ。何があかんのですかね？

千寿子 受け答えがスマートすぎ

かなこ もう、あんたっ。吉田君気にせんといて、変わってるねん

吉田 全然僕はそんなん大丈夫…なんかめっちゃ見られてるけど

かなこ 中入ろう。じゃあね、また。

千寿子 ちよつと

吉田 あ、ひかる君もこの近くにいてさつき

かなこ (慌てて吉田に) ちよつ

吉田 え

千寿子 ひかる君！？

吉田 え、もしかして…

千寿子 あんた、来てないって、知らんって言うたやんな。

かなこ …

千寿子 何嘘ついたってこと？私に、被害者である私に

かなこ 被害者て

千寿子 そうやんか！嘘やん、知らん事ないやん

吉田 あ、何かごめん、いらん事言うてもた

かなこ あんたのための嘘やん

千寿子 ちゃうやろ

かなこ 会ったってええことないやろ？会いたい？会ってどうすんの？それやったら会わんほうがええやろって、あんたの為にやん

千寿子 …何言うてるかわからん

吉田 あく、そのかなこさんは別に悪気があつてとかじゃなくて

千寿子 知らん人に言われたら余計わからん、ってかそもそも知らん人に言われる意味がわからん
かなこ ちよつと、ごめんな、こういう人やねん

庄司が店から出てくる。

庄司 あの、ちよつと警察の人が話聞きたいって

千寿子 ホラっ

吉田 え

かなこ え…

庄司 あ、皆さんについてことです。

かなこ ああ…

千寿子 なんでよ

庄司 とにかくさつきこのあたりで怪しい人がおったから、その協力を。中で

三人とも、ちよつと動かない。

庄司 え？

かなこ 行こう

吉田 ああ…うん

千寿子 躊躇

かなこ もう、いらんことばかり

千寿子、かなこ、吉田、中へ入る。

小野とももよがテラスに残される…

小野 大変やな、今日。

千寿子、テラスへ置き忘れていたヨガマットを取りに再び出て来て、慣れない様子

で肩に担ぎ、店の中へ戻る。再び残された、小野とももよ。

ももよ あのら何。

小野 ホンマ女ってこわいなあ

ももよ …

小野 あ、あの歳の人ってことな

ももよ そう

小野 人の言う事聞かへんし、自分の話ばかりするし、自分は良くても人は許さんかったり。えげつなかつた。

ももよ 聞かんかったらええのに

小野 聞かされてん。ある意味被害者、俺。

ももよ 一人はたまに来るから知ってるけど。

小野 ピンク？（千寿子）もう一人の黄色（かなこ）の女の人が、その人の前の職場の人で、結婚直前でダメになった婚約者が、その弟やねんで。偶然？どうやる…もしかしたらピンクが黄色の弟さんを紹介されたんかしらんし、弟さんから黄色のの働く職場をピンクが紹介されたんかしらんし。で、10年位前にここを出てたんやけど、今日、あ、いや一昨日から用があつてかなんか、帰ってきてたらしい。弟さんも一緒に。それをまあ黄色がピンクに黙ってたから、ちよつとややこしくなつて…あの中におつた男の人は。黄色、かなこさんやつたかな。の、彼氏。結婚詐欺

ももよ なにそれ

小野 疑惑っていうか：俺はちよつとそっちの線濃い感じがする
ももよ 初対面？

小野 いや、さっき変な電話してて
ももよ ふーん

小野 かなこさんはバツ1。相手は二人の職場の人やから共通の知り合い。とはいえ最近あってないから近況は知らん。かなこさんの方ももちろん知らん。

ももよ 凄いい情報量

小野 勝手に話しはんねん。結構赤裸々

ももよ それ覚えてるのもすごい

小野 ありがとう

ももよ ：別に

小野 そして店長はバツ3

ももよ えっ

小野 え、知らなかったん？

ももよ バツ、3

小野 そう。よっぽど問題あるんかな。ももよちゃん大丈夫？

ももよ 何が

小野 店長にそそのかされるっていうか、ホラ

ももよ そんな人じゃない

小野 あ、そうなんや。今は反省してんのかな

ももよ 聞きたくなかった

小野 え

庄司が店から顔を出す。

庄司 あの、二人も

小野 あ、俺らも

庄司 うん、全員にとって…（自分を見てるももよに）どうしたん？

ももよ いえ

莊司 え、なに？

ももよ いえ

莊司 え、なに（小野に）？

小野 さあ？

ももよ 店長！！私に黙ってることありませんか

勢いよく店長へ詰め寄るももよ。

莊司 え、なにになに

小野 ちよつと

ももよ 黙ってるって言うか、隠してるって言うか、秘密って言うか

莊司 いや、それは

小野 そりやね、全部は言わんやろ、そんな、ねえ

ももよ そりやそうやで。ただのバイトやし、全部言う必要はないです。ないですけど、ないのに、ないから

莊司 え、なに？

ももよ いいです、すみませんでした。

ももよ、踵を返して店へ。

莊司 え、なにになにになに

わけもわからず見送る莊司。

小野 さあ：ホラ、バツ3の威力發揮してくださいよ、こういう時どうすればいいか

莊司 嘘やで

小野 え

莊司 バツ3で、ジョークやん

小野 え：

莊司 見える？僕が？

小野 いや、こう見えてっていうし、そんなジョーク言う雰囲気でもなかったし

莊司 え？面白くなかった

小野 全然

莊司 したくないよ、結婚

小野 ちょ…

莊司 昔ね、いたけどね、そういう人

小野 振られた

莊司 亡くなって

小野 (少し黙ってから、笑う)

莊司 え

小野 またジョークでしょ

莊司 いやいや、こんなん嘘つかへんよ

小野 むずい…女も男も、人間むずい

莊司 え

小野 いえ

小野店の中へ、莊司も行くこうとして…

公園の方から、日下が追いつめられるようにやってくるのを見る。

莊司 え

その時、呼びに来たももよが、引き戸から顔を出す

ももよ 店長

莊司 しっ

莊司、ももよを黙らせて、ベンチへ。公園の方を一緒に見る。

ももよ え

莊司 しっ

公園では日下が、じりじりとシーソーの方へ出てくると、その前にはひかる。

ひかる なんで逃げるですか

目下 追いかけるから

ひかる なんで隠れるんですか

目下 そっちもコソコソしてたやん

ひかる 僕の事はどうでもえええ！（店の方を確認）良かった、中に入ってるってさつき連絡来たから

目下 ああ：中に

ひかる 行かなくていいですよ。

目下 え

ひかる 会わなくていいですから

目下 :

ひかる お久しぶりです

目下 どうも

ひかる お元気そうで

目下 そちらも。

ひかる ええ。

目下 10年ぶり？くらい

ひかる 15年ですね。

目下 そっかそっか

ひかる お忘れですか、そんなことも

目下 いやもうこの歳になったら10年も15年も一緒やから

ひかる 相変わらずですね

目下 え

ひかる その調子ええとこ

目下 え、こつちに？

ひかる 僕も姉もちよつと用事があつて

目下 そうなんやういやあ会えて嬉しい

ひかる その割には、僕の顔見て逃げようとな

目下 逃げたつて言うか、反射っていうか、何やろな

ひかる まさかここで会うとは

のらりくらりの目下に対して、一切笑顔を見せないひかる。

目下 そりゃこっちのセリフやで

ひかる なんで今日

目下 今日っていうか、そんなに頻繁じゃないけど、たまに来てたから

ひかる ここ、姉のお気に入りの喫茶店やったから、近寄らんといてくださいって言うてたでしょ

目下 いや、もうだってここから引越して10年やろ、離婚してから引越すまでの間、その間は俺一回もここに来てないで、一回も。来るようになったん最近やがな、最近

ひかる なんで最近来るんですか

目下 ええがな、それはもう。俺かてコーヒー飲むし

ひかる どこでも飲めるでしょう、別にこんな普通の喫茶店

莊司 (思わず) ちよつとちよつと

ひかる あ

目下 普通がええんやがな、その普通が

莊司 あ、お客さん…でしたか

目下 ちよつとちよつと、何回か挨拶してるで

莊司 すみません、顔覚えるの苦手で

ひかる 普通のコーヒー出す普通の喫茶店なんてクソほどあるでしょう

莊司 ちよつと

ひかる あ、山ほどあるでしょう

莊司 いや、言葉じゃなくて…

ももよ アレですよね、お子さん連れてくるからですよ

ひかる えっ

目下 あ

ももよ ちは公園が前にあるから、お子さん連れて来て遊ばせてはりますもんね

ひかる 子供

目下 ハハッ

ひかる え、子供

目下 …

ひかる 再婚、されたんですね

日下 そうそう、うん

ひかる いつですか

日下 えーっと、ま、あれかな6年前くらい、かな？

ひかる それで、お子さんも

日下 そうそう

ももよ 二人

莊司 ちよ

ひかる 二人！

日下 …ハハッ

ひかる (冷静に冷静に) 若い、奥さんですか。

日下 えーっと、いくつ言うてたかな。そんな若ないで。今43、44？うん

ひかる それで、お子さん、二人。

日下 そうそう、えーっといくつ言うてたかな。5つ、と、2つ

ひかる・莊司 2歳！？

莊司 え、おいくつですか

日下 来年還暦

莊司 57、8で！

日下 ハハッ。お恥ずかしい

ひかる ホンマに

莊司 別に恥ずかしい事はないでしょう、ええ事やないですか。

ひかる …

莊司 あ、そのね、お子さんが生まれるってこと自体は

ももよ うん

ひかる …絶対言わんといってくださいね、姉には

日下 別に聞いたからって何か思うかね

ひかる …

日下 いや、別に俺からは言わんで、わざわざそんな。そんな顔せんでも

ひかる そのね、お兄さんの、「元」お兄さんの、そういうデリカシーのなさってホントだめですよね
目下 今更そんなこと言われても

ひかる 早く帰ってください。

目下 え

ひかる 今日は、ここに近づかんようお願いします

目下 まあじゃあそうしよかな

莊司 あの犯人ももう捕まりそうですしね

目下 あ、そうなんか

莊司 ええ、それで今お巡りさんが

目下 良かったく子供よう外に出されんかったからなここ二日。ホンマ何考えとんのやろな、子供にってな

ひかる …

目下 (ひかるの視線に) いや、それは言うてもええやろ。一般論やん

ひかる 別に何も言うてないでしょ

目下 顔、顔が。

ひかる 一般論でもないでしょ、それに。お子さん二人もおったら

目下 まあな、実際自分に子供出来て初めて分かることがあるから

ひかる (割り込むように) 口が裂けても。そんな事言わんといってくださいね

目下 …ほな帰ります

ひかる ホンマ。そうしてください。

目下 じゃあ

去ろうとした目下に、ひかるが食い下がる。

ひかる あのね、でも姉が今でもめっちゃ恨んでるとかそんなんじゃないですから

目下 え

ひかる 僕の、弟としての気持ちで言うてるだけで姉の代弁ってわけじゃないですから

目下 あ、そうか。はいはい(去ろうと)

ひかる (回り込んで) ホンマですよ姉を悪く思わんといってください

目下 そんなん思うかいな、じゃあ(去ろうと)

ひかる (また止めて) ホンマに、これは俺が勝手に言うてるんで

日下 わかった。そう思っておくから

ひかる もう会うこともないでしょうけど

日下 まあ、な、ほな(また去りかける)

ひかる でもどつかですれ違って、その時お子さん連れてたら、絶対に姉とか会わさんようにして下さい。姉が気づく前にサツと身を隠して、あ、お子さんに安全なように、ですけど、そういう風にして下さい

日下 むずかしな

ひかる 僕の、願いです。

日下 わかった、じゃあ。お元気で

ひかる あ、待っててください、ホンマお願いします。

深々と頭を下げるひかる・・・の後ろに店の引き戸から出てきたかなこが立っているのが公園側にいた日下から見える。

莊司 (かなこに気づいて) わ、わわわ

ひかる え(顔をあげて、日下の目線の先にななこを見て) あ、えええ…タイミング。なんで早くももよ 引き留めてたからな、自分で

かなこ、日下を確認して、ゆっくりと引き戸からテラスへと。

かなこ : お久しぶり

日下 久しぶり

かなこ なに、若作り。若い子と再婚でもした

日下 いや

かなこ してないの

日下 いや、若い子やないけど、再婚は

ひかる 6年前ってさっき言うてた

かなこ おめでとう

日下 そっちは

かなこ もうすぐ

日下 えっホンマか!?

かなこ なんでそんなウソ言うんよ。

日下 いや、俺が再婚したって聞いてホラ、そういうのもあんのかなって

かなこ やめて、もうとつくにしたと思ってたくらいやわ。6年前で、意外と遅かったやん

日下 そうか

莊司 (二人の会話に耐えかねて…) 日照ってるのに、寒いな

ももよ …あの、警察の人は

かなこ そうそう、それぞれ。今ちよっと連絡入って出て行かあったから…忘れ物…あれ?私ここに鞆置いて
なかった?小さいの

莊司 いえ、ここには

ももよ 持つてはりましたよ、さっき。それで中に

かなこ え…うそうそ、持つてないよ、だからここに置いてるはず

ももよ いえ、持つてました、椅子のところに置いてました

かなこ うそやっ

日下 どないしたん

その時、小野が飛び出して来る。

小野 よ、吉田さんが逃げたっ!!

一同 えっ

小野 さ、さっきそのかなこさんの財布がないって話をしてて、その間に電話かけるふりして店表から出て
行って、今みたらおらんねん

かなこ 逃げたって。その辺に多分

小野 いま、千寿子さんが追いかけてる

ひかる お姉ちゃん!

ひかるが、店内に入っていくかけて…

ひかる 表から出てんな!?

小野 そ、そうっ

ひかる、店内へ。

莊司 お姉さん思いなんですネ、必死で追いかけて

かなこ でもあの子、吉田君の顔知らんねんけど

莊司 え

かなこ 会うのは今日が初めてで。ここで…

莊司 そうやったんですネ

日下 え、その逃げたやつが、さっき言うてた、もうすぐっていう…？

かなこ 逃げたとかちやう、何かのアレや間違い

日下 …

かなこ 何よ

日下 別に

かなこ …

小野 顔知らんと追いかけたって弟さん、ちよっとおちよこちよいって言うか…（日下を見て）あっ！！

犯人っ！！

一同 えっ！？（皆それぞれ公園の方や、道の方を見る）

小野 （日下に）いや、お前やお前

日下 えっ、鞆も財布も知らんで

小野 そっちちやう！とぼけるなっ

日下 ええ？？

かなこ あんた、何したん！？

日下 いや、なんもしてない…やろ？

かなこ 絶対なんかすると思ってたわ

日下 絶対ってなんやねん、なんかってなんやねん、思ってたってなんやねん

かなこ そうやないのっ昔っからそうやった

日下 俺がいつ何したって言うねん、人を前科もんみたいに

かなこ 一歩手前やろ

日下 何やそれ

莊司 ちよ、ちよっと

小野 え…

かなこ カツとなったら何するかわからん

日下 おいおい人聞き悪い

かなこ せやないの、凍ったこんにやくゼリー投げる男が

小野 どういうこと

莊司 わからん

小野と、莊司ももよはかなこと日下の会話に入っていけず、三人で二人が座るテーブル席の見守るようにベンチへ座る。

日下 まだ覚えてるんか何十年前の話やねん

かなこ そういうあんたも覚えてるんやろ

日下 今まで忘れとったわ

かなこ よう忘れられるなっ

日下 覚えてても忘れてても結局何か言われるやないか

かなこ 白状しい

日下 何をや、何を。俺が何してん

かなこ 言うたって（小野に）

小野 あ…いや、お知り合い？

莊司 うん、だから多分違う

かなこ え？

日下 おいおいおいおい、え？もしかして？

小野 あ…

日下 ええ！？あの子供叩いたって言う、そんな犯人と思われてたってことか？

莊司 いや、ホラうろろしてはったから逃げて

日下 いや、それはホラ（かなこの方を見る）

かなこ おる思わん人がおったから、会いたくなくて逃げてたんちゃう

日下 そんなんちゃうけど

小野 サングラスとか、条件がホラ

かなこ ホンマやで柄でもない

日下 これは誕生日に嫁はんが

一同 …

かなこ ふーん

日下 え？何かアカンか？そりやもうたら使うやろ。え？悪いことちゃうやろ普通やろ。

莊司 ま、それはね。そうですね

かなこ 別に何も言うてないやないの。

日下 それそれ、いっつもそれ。何も言わんって言うそれが一番もの言うてるねんお前は

かなこ 黙っててそんな言われたらどないしようもないわ

日下 目は口ほどにってお前の為にある言葉やな

かなこ あんたもやで。あだからサングラスくれはったんちゃう？奥さん。似合わんけど、ホラ、目が物言うから。それに、そんなくれるって…若いんやろうね

日下 は

かなこ 007のモデルや

莊司 古くないですか？

かなこ・日下 スペクターや

かなこ ダニエルクレイグの007のモデルや

日下 (黙ってかける)

かなこ ホンマ似合わん

日下 ほんなら捨てたらええんか？割ったらええんか？

かなこ 凍らせて投げたらええんちゃう？得意やろ

小野 でた

ももよ こんにやくゼリー

莊司 気になるな

ももよ 聞いて

小野 ちよつと無理

日下 もうええやろ、その、犯人やっていうのは濡れぎぬやってんからな

小野 あ、すみません

かなこ 隙があるってことや

日下 は

かなこ だらしないねん、そもそもトイレもそうやん

日下 今せなアカン話かそれ??

かなこ トイレットペーパー絶対自分で換えへんしな

日下 最後まで使い切ってないからやろ

かなこ あと一巻き残してな。5センチでどうせえって言うねん

日下 わかったわかった、サングラスも似合わんし、トイレットペーパーも換えへんし、こんにやくゼリーも投げるしな

荘司 凍った、ですよね。

かなこ …

かなこと日下、テーブル席を立ち…二人で荘司に詰め寄り…

日下 レーコー

ももよ あ、はい

日下、店の中に、ももよも一緒に。

かなこは、そのまま公園の方へ歩いていく。

小野 ちよつと

荘司 え、僕のせい??

荘司、公園の方へ行きかなこの前に回り込み…シーソーにまたがる。

荘司 どうですか?ご一緒に

小野は、呆れるように店内へ。

黙ったままのかなこに耐え切れず、一人シーソーを始める荘司。

荘司 筋トレになりそうです。

かなこ …

荘司 こうね、太ももの。

かなこ：

莊司 中々きついから、流行りそうですよ。

かなこ：

莊司 家でね、わざわざホラ座ってやるやつ買うより、公園でね。こうやって

かなこ：

莊司 筋トレ筋トレ、ホラ。ね

かなこ：

莊司 クロワツサンみたいですわね。

かなこ なにが

莊司 え、これですよこれ太もものこの動き。

かなこ ：スクワット

莊司 ああそつちです、そつち

かなこ (ちよつと笑う)

莊司 変ですか、この格好。

かなこ、シーソーの反対に回り、シーソーを掴んで動きを止める。

かなこ ：騙されたんやろか

莊司 え

かなこ 財布、鞆、年下。

莊司 うーん：

かなこ ：犯罪者

莊司 いやそこまでかどうかはアレですけど

かなこ あの子の言う通り、結婚詐欺

莊司 それもまだね、どうか、うん

かなこ ：(シーソーにまたがる)

莊司 あくでも良かったじゃないですか(言いながら、漕ぎだす)

かなこ え

莊司 もしね、そういう悪い人やってたら今わかって。早いうちに、縁が切れて

かなこ 早くはない

莊司 え、でもまだ結婚前

かなこ 早くはないな

莊司 まあ…でもね、もつとこう…ね、アレよりは良かったですよ

ももよ、店の引き戸から顔を出す。

ももよ 店長

莊司 あ、はいはい

かなこ 行って行ってお店

莊司 でも…

かなこ お客さん。私もまた、あとで

莊司 大丈夫ですか？

かなこ え？…ああ

莊司 一人でシーソー

かなこ …筋トレしとくし

莊司 太ももね

かなこ クロワツサン

莊司 スクワットですよ

かなこ …

莊司、店の中に。ももよ残ってかなこに

ももよ …あの

かなこ はい

ももよ 警察、届けます？

かなこ ああ…ホンマやね。ラッキーやなようけおるし、今日

ももよ …

かなこ 笑ってや

ももよ 私愛想ないんで

かなこ 若いのに、損するで。顔もかわいいのに

ももよ …

かなこ 警察な。せやな。騙されたんやから、犯罪やもんな犯罪者。婚約者じゃなくて犯罪者。

ももよ (絵にかいたような愛想笑い) ははっ

かなこ ありがとう。あの子ら…どこまで行ったんやろ、もうアレかもな捕まえて引き渡して逮捕されて牢屋入って…懲役くらってるかもな。

ももよ 懲役100年!

かなこ アメリカみたいやな

ももよ 店長の焼きめし美味しいですよ。オムライスもお勧めです。カレーはレトルトですけど。

かなこ ありがとう

ももよ チーズケーキ、作りました、私が。店長はいつも美味しいって言うてくれます。

かなこ ありがとう。

ももよ はい

かなこ チーズ嫌いやねん

ももよ あ

かなこ ごめんな。

ももよ いえ

。パトカーの音

かなこ あの子が言うた通りや。捕まえに来たんや。

ももよ しょもない男ですよ

かなこ そうやな、ホンマ。どいつもこいつも

ももよ そうですよ

かなこ ああ…またや

ももよ え

かなこ また、これな

ももよ …

かなこ 知ってるねん、この感じ

ももよ …

かなこ だから、大丈夫やねんで。初めてじゃないから。もう半世紀以上生きてるからな。大抵の事はな、二回目やったりするねん。だから知ってるねん。この感じ。15年前にもあつたから。どんなけしんどいか、痛いかな。…。…ほんでそれが、耐えられへん事じゃないことも、知ってるねん。だから大丈夫やねん。

ももよ …良かったです。知らんけど

かなこ 焼きめし！

かなこ、腰かけていたシーソーから立ち上がってテラスの方へ。

ももよ え

かなこ 焼きめしにするわ。ほんで、弟にも連絡せんと、どこ行ったんや。

ももよ 千寿子さんも

かなこ ホンマやな。もう今は連絡先知らんけど

ももよ 私もです

かなこ、店に入りかけて止まる。

ももよ あ…中に(日下が…)

かなこ 焼きめしもええけど、その前に警察行こうかな。カードも止めて、あく免許書ややしわ、めんどくさい。お金はええから他は返して欲しい。

ももよ 一緒に行きますよ警察

かなこ え

ももよ どうせお客さん一人やし、レーコーやし。

かなこ もう一人おったやん、あの若い子

ももよ 大丈夫です

かなこ、ももよ笑いながら奥の道の方へ。

いつからか公園から見ていたひかるが姿を現し、去っていったかなこの方を見て…

シーソーに座り込んでしまう…吉田も公園の方からやってくる。

シーソーに一人で座って顔を伏せているひかるを気にしながら…お店の方へ。

ひかる くそっ

思わず声が漏れるひかるに驚く吉田。

心配そうに公園の方へ戻り、少し様子を見る。

吉田 …座りましょうか？

ひかる あ（驚いて顔をあげる）ああ、大丈夫です大丈夫です。ごめんなさい。ありがとうございます。

吉田 気分悪いとか？大丈夫ですか？救急車…

ひかる ああごめんなさい。大丈夫です大丈夫です。

ひかる、立ち上がるが、心配そうに見ている吉田に。

ひかる あ、ホントええ。ちょっと、アレです。身内に不幸っていうか…ええ

吉田 ああ…それは。ご愁傷

ひかる いや、そういう不幸じゃなくて。あの。はい、まあ身内の哀しい出来事っていうか、はい、でも大丈夫です。

吉田 ああ、そうですかゴメンなさい、失礼しました。

ひかる いえ、僕がね、ややこしい

吉田 …まあ色々ありますよね。

ひかる 本当にね、半世紀も生きてると。

吉田 えっ若く見えますね

ひかる あ、ごめんなさい僕じゃないです、その身内の…はい

吉田 優しいんですね。

ひかる え

吉田 さっきから身内のことばかりで

ひかる いや、そんなことないです。迷惑ばかりかけて…僕のせいで色々。だから

吉田 そう思ってるってだけでできっとその方は幸せですよ。何があったか知らないですし、勿論聞かないですけど。そういう風にね、自分の事を思ってくれてる人がいるって。ねえ。めっちゃいい。うん。

ひかる すみません。…あ！ここの焼きめし美味しいですよ。お礼に、情報です。あ、でも知ってはるかな。

吉田 いえいえ、嬉しいです。良かった。僕は今日ちょっと嬉しい事があってここに。

ひかる あ

吉田 あ、わざわざ嫌みとか自慢とかじゃなくて、その…そういう日もあるし、きっとこういう日もあるって言うね

ひかる ありがとうございます。いいですね、嬉しい事。

吉田 はい

ひかる そうですね、そういう日も、こういう日も

吉田 そうじゃないとね、やっつけられないでしょう

ひかる ホンマに。ありがとうございます。

吉田 なんもなんも、そんな

二人、笑っている…そこに公園からやってくる千寿子。

千寿子 (ひかると吉田を両方確認して慌てて、隠れる) どういう…こと。

その時、店の中から荘司が

荘司 (ひかるを見て) あっ帰ってきて

ひかる すみません、よう考えたら(吉田の)顔知らなくて

スマホの着信が鳴る。

荘司 (音に気付いて吉田を確認) え

吉田 (舌打ち) ちょっと

吉田が奥の道の方へ足早に去る。

荘司 え、えええ

ひかる (荘司が吉田を見たことには気づかず) どうしたんですか?

荘司 は、犯人、犯人っ!!

ひかる え?どこ

荘司 ぼ、僕、店出て前から回りますっ!!こ、公園から

荘司店の中に

ひかる え？ええ？？犯人、え、子供の？たいたっていう？

ひかる、言われるがまま公園の方へ、千寿子は看板に隠れている。

皆が去ると、千寿子出てくる。

千寿子 え…と…（ひかると、吉田が去った方を比べて…）

吉田が去った、奥の道の方へ走っていくと同時に小野が店から飛び出して来る。

小野 早く！！早くっ

日下 ええ…

後からアイス珈琲を持ったままの日下が出てくる。

小野 僕は公園から回りますっ

日下 なんで俺まで

小野 元奥さんの婚約者の、いや、元婚約者のことでしょ！ちょっとは何か思いませんか、男として

日下 顔知らんねんで

小野 店長が追いかけてるやつ追いかけたらいいんですよっ。早くっ

日下、しぶしぶ奥の道の方へ。

公園の方へ小野が去りかけると、ひかるが戻ってくる。

小野 あっ！会いました！？

ひかる え？

小野 詐欺、詐欺師

ひかる えっ！？戻ってきたん！？

小野 さ、さっき見たって。俺、こっちから回りますっ

ひかる 頼むっ。あ、今あの犯人もウロウロしてるみたいやから気を付けて

小野 え

ひかる 子供を叩いたって

小野 えっ！！…わかりましたっ

小野、公園の方へ。

ひかる ……いつのまに

奥の道の方から吉田が現れ、ひかると対面。

ひかる あ、みませんでした！？

吉田 え、何を

ひかる 犯人たち

吉田 たち

ひかる たちっていうか、え…っと、ホラ、この公園でね、子供を叩いたっていう犯人がいて。

吉田 ああっ！たちって事は、なんか。アレですか？複数犯？仲間、集団？…仲間？集団…？

ひかる いや、たちは別の…こっちのアレなんで、はい。

吉田 とりあえず警察に会ったらいいます。

ひかる あ。えっと、ヒントはサングラスですサングラス

吉田 はい

ひかる 僕はちよっと、こっちに。お願いしますっ

ひかるが奥の道の方へいくと、店の中からアイスコーヒーを持った日下が。どうやら表からまた店に戻っていたよう。少し周りを気にして、誰もいないことを確かめて、テーブルに座る。

その日下の様子が気になって、公園の遊具の影から観察していた吉田…の視線に気づき、日下はサングラスをかける。

吉田 (サングラスをかけた吉田にハツとして…) あの

日下 はいはい

吉田 (毅然とした態度で) お店の方は

日下 ん…今なんか皆おらんようになって

吉田 おらんように

日下 そうそう。ちよっとね、ごたごたがあつたみたいで。私は、留守番を

吉田 留守番

日下 そうそう。もう走られへんし…っっていうか皆おらんようになったらな、店やのに。

吉田 ああそうですね。ここには、よく？常連さん。お一人とかで？

メモを取り出し聞き取りをする吉田に、日下も襟を正す…

日下 まあ。

吉田 ええ…

日下 子供連れて普段は。今日は、ね。

吉田 ああ〜！お子さんいらっしやるんですね。

日下 ええ

吉田 そうかそうか、じゃあアレですね。はい、すみません。

日下 え、もしかして…（警察？）

吉田 いや、すみませんすみません、やっぱりちょっとね、ごめんなさい。

日下 いやいや、え〜（免許証を取り出し、吉田に見せて）日下よし。59歳。

吉田 （出されたので、とりあえず確認して）え、あ、日下さん。はい。

日下 これやねこれこれ（サングラスを）

吉田 失礼しました。（顔の前で片手でごめんのジェスチャー）

日下 いえ、ご苦勞様です。（同時に敬礼）

吉田 お子さんいらっしやるならね、そんな、ね

日下 まあ自分の子供でも、嫌なニュースもありますけどね。そんなんも増えたでしょ

吉田 ホントにね。ニュース見ても

日下 色々思いますよね。

吉田 あ、いないので、子供。

日下 あ、独身？

吉田 まあ、別に子供は

日下 あ〜いらない

吉田 いらなとも思っでないですけど

日下 あ…申し訳ない

吉田 いえいえ、別に。理由はないですよ。はい。絶対とも思っなくて。だからまあ考えてないって言うのが一番ですかね

日下 ああまあ今はね、自由っていうか。そういう人もね

吉田 そうですね

日下 でも

吉田 はい？

日下 いえ、まあその…考えてないってのはあんまりかな

吉田 え

日下 いや、絶対持つべきとか、持たんのがええとか、持ったらどうか、持つって言葉自体もどうなんかとか、もうね、難しい。正直。まあでもホラ、色んな事情があるからそれはね、しゃーないというか、いろんな形があるんやろうとは思ってるんやけどね。こんなおっさんでも

吉田 いや、そんな

日下 でもね、考えへんのはアカンちゆうか、あとで考えることになったら、困るっていうか、困らせるっていうか

吉田 後で

日下 そうそう。だってホラ、男はねいくつになっても、やけど

吉田 ああ、そうですね。ミックジャガー72でしたっけ

日下 相手があるし、親もおるし。だからどっちにしろ考えるちゆうか、話はしとかんと

吉田 ああ

日下 後々なあしんどい。しんどい言うたらまた怒られるわ。ま、それで一回失敗しとるおっさんの話です
吉田 そうなんですか…すみません

日下 いえいえ。

吉田 でも、はい、ありがとうございます。

日下 せやけど、ホンマ早く捕まって欲しいな、そんな奴は

吉田 ああ

日下 子供叩くとか、女騙すとか

吉田 え？

日下 いや、そんな奴もおるそうで

吉田 へえり（また電話）あ、すみません
日下 いえいえ、お仕事ね、ご苦労様です。

吉田、電話に出ながら公園の方へ去って行くのを、敬礼しつつ見送る日下。
と、小野が奥の道の方からやってくる。

小野 （日下を見つけ）なにを！？

日下 あ、ホラ、事情聴取的な。捜査の協力。協力。

小野 えッ、さっき、（吉田が）こっちに行くのが見えたんですよチラッと

日下 刑事さん行った方やがな

小野 こっちです（日下を待つ）

日下 だからなんで…あ、いえ、行きます。

公園の方へ、小野と日下が去ると、店の引き戸からかなこももよが。

ももよ 誰もおらん

かなこ なんでやろ…いや〜でもごめんな、ホンマに

ももよ 良かったですよ、でも…あれ

息を切らして奥の道からやってくる千寿子、思わず店の中に隠れるかなこ。

千寿子 （ももよに）見つかった？…汗止まらんわ。…腹立つなっ

ももよ （かなこさん）また、ですもんね

千寿子 …汗止まらん

千寿子の様子を見て、かなこが隠れている店の引き戸を開けるももよ。
聞き耳を立てていたかなこが飛び出てくるのに驚く千寿子。

かなこ・千寿子 何やってんの

かなこ …あれ、追いかけてくれてんな。足遅いの

千寿子 お礼？文句？

かなこ お礼

千寿子 どういたしまして。全然逃げられたけど

かなこ 良かった

千寿子 え

ももよ 財布、鞆ごとトイレにあったんです

千寿子 …なにそれ

かなこ 何って、そういう話。

千寿子 あんたさ

かなこ あ、さっきトイレから出して、また置いてきた、取ってくるわ

かなこ、店の中に。去ったかなこを見つめる千寿子にももよが…

ももよ 腹立つを通り越して呆れるって感じですか？

千寿子 ううん、全然腹立つ。

ももよ (かなこを指して) 日下さんもわざとじゃないし、ホンマに慌ててはったんで

千寿子 へ

ももよ 日下さん本人が一番慌てたでしょうしね

千寿子 日下さん本人が

ももよ 警察行く前に気づいて良かったです

千寿子 日下さん本人が…日下さんってなんで名前知ってんの

ももよ え、警察行く時に銀行にカード止める電話してたんです。その時に名前自分で

千寿子 日下って

ももよ はい

かなこ、鞆と千寿子のヨガマットを持って出てくる。

かなこ コレ、あんたも忘れてたで、飾り

千寿子 (受け取りながら) 飾りちゃうし、忘れてたんちゃう、置いてたんや。使ってるやつ、いつも

かなこ サラヤんほぼ

千寿子 ものは大切になって親から言われて育ってんねん。それ守ってんねん。

ももよ いつもと違う格好

千寿子 毎日会ってるわけちゃうやろ

かなこ ひかるを見かけたっていうてたから、それで？その恰好？わざわざ？ヨガマット？意識高い系意識？

千寿子 なに？詐欺じゃなかったってわかったらいきなり余裕？あんたかて、わざとここ選んだんやろ

かなこ え

千寿子 もしかして、会うかもって。幸せな私を見せたらうって。年下の経営者、詐欺かも知らなかったけど
かなこ 違ったやろ

千寿子 それ見られたかったんちゃうん

かなこ そんなん思うかいな

千寿子 ほんでどこいったんよ、このタイミングでその年下の経営者は

かなこ …

千寿子 やっぱ鞆の中までちゃんと見た方がええんちゃん？

かなこ 財布入ってる

千寿子 カードは？免許証は？保険証は？印鑑は？印鑑証明は？年金手帳は？診察券は？Tカードは？

かなこ ホンマあんた：汗出てきたわ、ハンカチハンカチ：（と言いながらカードなどチェック）

千寿子 （ももよに）見んふりしたろ。

ももよ あ

かなこ 全部あります。何もなくなってるない。いらんことばかり言うて。

千寿子 もしかしてって思うからコソコソ確認してたんやろ。わかってんねんで。私。…ひかる君。

かなこ なに

千寿子 ひかる君。してない言うてたけど、してるやろ。結婚。

かなこ …（誤魔化そうとして、やめる）

千寿子 今の時代、本人がSNSしてなくてもな、その周りからわかることもあるねん。

かなこ えつわざわざ周りの人のん見てるん？？調べて？

ももよ サイバーポリス

千寿子 どうとでも言うて。世界に発信されてるもん私が見て何が悪いんな。

かなこ 見てどうすんのよ、知ってどうすんのよ

千寿子 どうもせえへん。でも私はな、知らんより、知っときたいねん。性分。

かなこ それでイラつとしたり、ムカついたり、傷ついたり、しんどなっても？

千寿子 そう。

かなこ ……すごいな

千寿子 ニキビできるとするやん？

かなこ 吹き出物な

千寿子 吹き出物できるとするやん？ どうする？

ももよ クスリ塗ります。

千寿子 自分でつぶすタイプやねん。私

ももよ 痛いし跡残るし

千寿子 残っても。蚊にかまれても、血いでるまで搔く。

かなこ ……ももよ ……

千寿子 時間かかるのわかってても、遠まわりする時もあるやろ。

かなこ 急に例えの感じかわるやん

千寿子 この歳なったら、そうせなあかん時もあんなねん。それしかないねんから。

その時、莊司が息を切らせて公園の方からやってくる。

かなこ あ、お騒がせしました。荷物あつて

莊司 (安心して倒れ込むように) あく良かったああ！ じゃあ詐欺とかじゃなく？

千寿子 まあなんでかおらんねんけどね

莊司 あ、何かさつき

かなこ 皆おらんなくて、もしかして皆で吉田君を？

莊司 僕はそうです。皆も？

ももよ あ、それだけじゃないみたい。今、子供叩いた犯人がって

莊司 えっ！？

ももよ それはもう警察に任せた方がいいんじゃないですか

莊司 でも、吉田さんは違ってたって、皆に言うてきます。その辺走り回ってるから。警察に怪しまれてもア

カンしね

かなこ すみません

莊司、去っていく。

ももよ (莊司を見送って) 別れても、好きなんですか？

千寿子 は？なに急に。いや、私はちやうけど

かなこ 私かて

ももよ 別れても好きやから、痛みを感じたり、遠まわりしたり、会いたかったり会いたくなかったり、知りたかったり知りたくなかったりするんですか。全然わからないんですけど、今日の皆みて。混乱するばかりなんですけど。

千寿子 混乱て

ももよ 私、好きな人、バツ3なんです。

二人 バツ3!?

千寿子 いやそれはもう辞めとき。

かなこ でもそれ知らんと好きになったんやったらな

千寿子 あれでバツ3て、何かあんねんて問題が

かなこ 裏を返せば3回も出来たってことやし

千寿子 何にせよ理由理由

ももよ 理由。別れる理由。

三人 …。

思わずかなこを見るももよ。答えに詰まるかなこ…と、

千寿子 私はな、いらんって言うてん。でも向こうは欲しいって。子供。

ももよ え

千寿子 どんな大層な家やっちゅうねんな。…まあ向こうには子供欲しいって気持ちがあるが(ももよをシーソーに座らせ、自分も座る)私より、重かったってことや

シーソーは、重い千寿子の方に傾く。

かなこ 説明と違うからややこしい。

千寿子 (ももよに) ちよつと

かなこ そりやそうなるやろ。シーソーとはそういうもんや。

そこへ、吉田が帰ってきて、シーソーに集まる三人を見て：

吉田 楽しそうですね。

千寿子 は！？

かなこ 吉田君！何してたん？

吉田 え？あ、ちよつと電話かかってきて、それで。え、僕なにか？

千寿子 悪気ないのが一番たち悪い

かなこ (千寿子に) ちよつと。

ももよ 良かった：

かなこ ホンマ。あ、電話？大丈夫

吉田 うん、お母さんと

三人 …

千寿子 おかあさん

吉田 ええ。

三人 …

吉田 引越す家の振込頼んでたのに、まだって言うから。あ、お金は僕のですけどね

千寿子 引越す家

急に楽しそうに、会話に入っていく千寿子。

かなこ いや、まだそんな：

吉田 和室もあるええとこがあつて。相談って思ったけど、すぐに完売なりそうって聞いて

かなこ ああ：

吉田 ホンマ、自分が住むとこやのに、振込忘れるって。母親、昔からおちよこちよいで

三人 …

吉田 いや、悪口ちゃいますよ。(かなこに) 料理上手やから、そこは安心して任せてええで。特にはっこ

き鍋。知ってる？塩だけで

かなこ 私嫌いやねん、はっこき鍋。

吉田 えくっ！！初耳。あ、でも和食だけじゃなくて、あの歳にしてはイタリアンも得意やし。

千寿子 (かなこに) 良かったやん。パスタ好きやん

吉田 良かった！

かなこ …

吉田 あ、それとかなこさん

かなこ まだなにか

ますます聞き耳をたてる千寿子、

吉田 僕ら色々話をせんとあかんって。今更やけど、思ってる。

千寿子 ええこと言う。

吉田 さつきね、ここにいた常連さんですかね、日下さんって人にアドバイス貰いました。

ももよ え、日下

千寿子 え、おったん！？

かなこ 大丈夫、もう会ってる。ここで、さつき。

吉田 かなこさんも知り合い？

かなこ まあ、元上司やから

千寿子 え、おったって、家族も！？

かなこ 一人。…家族も？

しまった…？と、千寿子、ももよを見る。

ももよ（それは知らなかった事実）と、首を振る。

かなこ 家族も？

千寿子 …

かなこ 家族。夫婦？とか奥さんも？って言うよな。家族もって言うたよな？

千寿子 夫婦でも家族やん。

吉田 今日はお一人でした、子供さんは一緒じゃなかったですね。

千寿子 …（言い訳をして取り繕おうとして…諦める）二人な、5歳と2歳。

かなこ …。

吉田 え？（電話）あ、また

千寿子 中でどうぞ。ホント、悪気がないところが、ホンマ。すごい、その歳で。独身。うん、わかる。

吉田 ありがとうございます。

言いながら吉田が店の中に入っていく。

かなこは、テーブルに座り公園？去った吉田？を黙って見ている。

千寿子は、ももよを連れて公園の隅の方へ行き、かなこと距離をとる。

ももよ (千寿子に、小声で) 日下って

千寿子 離婚して三カ月以内に申請したら、別れた旦那の苗字名乗り続けられるねんて。

ももよ 申請。え、なんで

千寿子 そりゃわからん。わからんよ。

ももよ 大丈夫ですかね…

千寿子 (そーっと公園の奥へ回り込みかなこの表情を覗き、またそっと戻る) 笑ってる

ももよ えっ

千寿子 今、子供おったら叩こうって衝動おきるんやろか

ももよ え

千寿子 わかるわ

ももよ え、笑ってるって？わかるって？

千寿子 嘘

ももよ え、嘘って何が

かなこ、立ち上がり引き戸を開け、店の中に。

千寿子とももよ、追いかけて引き戸や窓に張り付くように内を覗く…と、そこへ荘司が帰ってきて、本日何度目かのその様子に驚く。

荘司 すみません

千寿子 あ

荘司 なにか、中で？

千寿子 修羅場

荘司 えっ

ももよ いや、話し合いです、話し合い

千寿子 他の人らは？

莊司 今戻って来ると

ももよ (意を決して) 店長

莊司 なに

ももよ 私、ついて行きます。

莊司 え

小野も公園の方からくるが…二人の様子に小野、思わず遊具に隠れる。

ももよ 店閉めて実家に戻るって

千寿子 わ(引き戸横のベンチに座りその様子を見守る)

莊司 ああ。でも実家の近所でまた

ももよ だから、私それ手伝います。そこでも！

莊司 ありがとうございます、ホンマ助かるわ

千寿子 かるっ！それは軽すぎるやろ、この子の一大決心に

莊司 え、でも

小野 ちよつと！どういうこと、ももよちゃん

ももよ (出てきた小野に驚き) え、どういうことって

小野 え、俺ら、別れる？

一同 えっ

小野 まあ、それは。冗談やけど

ももよ びっくりした

小野 ごめんごめん、でもさ、さっきのももよちゃんも

ももよ いつから付き合ってることになってるんやろうって思った

小野 え

千寿子 そんなことある？

小野 え、でもでもだってだって名前聞いたら下の名前教えてくれて

ももよ 苗字です

小野 え

ももよ 百に時代の代で、百代です。苗字。

小野 苗字

ももよ はい

莊司 百代しずか、やんね

ももよ はい

千寿子 え、それでアレ？自分の事好きなんちゃうとか思ったってこと？

ももよ え

小野 わーっつ！ちよつと！！

千寿子 え？下の名前教えてくれたから？それだけで？しかもそれも下の名前ちやうかつたってこと？え？なにそれ？

小野 いや、だって、そりゃ、ももよって、ももよって…

ももよ だから、苗字

小野 変な苗字！

千寿子 （思わず吹き出して大笑い、そして小野に）ありがとう

小野 …（嬉しくない）

ももよ だから、店長私

小野 いや

千寿子 （小野を遮って）やめとき、もう話終わってる。

小野 …

千寿子、手招きして小野をベンチの横へ座らせる。

ももよ 行きますから、いいですか？嫌って言うても行きます。行きたいです。

千寿子 ええんか、バツ3

ももよ 関係ないです。前とか、そんなん。ちゃんと言わなって思ったんで。

莊司 …ありがとう。うん。でも、バツ3は嘘やで

ももよ えっ！（小野を見る）

小野 いやもう俺です俺がはいはいはい

千寿子 店閉めんのか…店長さんの田舎って

ももよ 茨城（県）ですよ

莊司 うん、茨木（市）

一同無言の間。そこへ、かなこが店から出てくる。

千寿子 早っ、もう話ついたらん？

かなこ アホ、電話かかってきたからや

微妙な間の中、吉田も店から出てくる。

吉田 ごめんごめん、今はちよっと切ったから。

小野 （吉田に）ちよっとくホンマびつくりしましたよ

吉田 え？

かなこ 何でもない

莊司 良かったですね、誤解で

小野 ホンマ人騒がせでしたけど。まあでも良かったです。

千寿子 （めいっばいの笑顔で）ホントに良かった。うん。ね

莊司 ホントに

千寿子 （笑顔）良かったホンマ。ええ人で

吉田 ありがとうございます。

千寿子 （まだ笑顔）ホンマ

かなこ 嬉しそうやな

千寿子 めっちゃおもしろいもん。

莊司 友達想いなんです

千寿子 そう、私性格ええから。冷たいのお願い。喉渇いたわ

千寿子、楽しそうに、店の中に。

かなこ ほんま、ええ性格

ももよ でも、私はちよっとそう思いますよ、ホントに。言わんかったり、隠したり、汗止まらんかったり

ももよ、店内に入りかけると小野が

小野 俺、店長と似てるって思うねん
ももよ は？

ももよ、店の中に小野も追いかけて、店内へ。

莊司 えっと、皆さんどうぞ、ドリンクご馳走しますから。

吉田 ありがとうございます〜

そこへ、ひかるもやってくる。

ひかる お姉ちゃん！

吉田 えっ！？

ひかる え！？

かなこ え？なに

ひかる 吉田さんって

吉田 はい

かなこ なになに

ひかる さっきここで会って…ああ、でも良かった〜ええ人って思ってたから、誤解で

莊司 ねえ、ホンマに

ひかる 安心した。お姉ちゃん、大丈夫。めっちゃええ人

吉田 そんなそんな。さっきから皆さん何をそんなに

かなこ 今はもう、大丈夫。

吉田 あ、店長さんがご馳走してくれるそうなので、ひかる君も

莊司 どうぞどうぞ

ひかる ありがとうございます。ああ〜でもここにしておかしたな。今日

かなこ そうかな

ひかる ここ、姉が好きやったお店で。

吉田 そうやったんや。それで、今日ここ

ひかる ちょっと実家の整理でこっちに来る用事あったからね、どうせやったらここであって

かなこ 好きちゃうで

ひかる え

かなこ 全然好きじゃなかったよこんなところ

莊司 ちよつと

ひかる ずっとおったやん、ようここでコーヒー飲んで本読んで。だから

かなこ コーヒー飲んで本読んで、ずっとおったけど全然好きじゃなかった

吉田 そうなんや

かなこ こつから、（公園の方を見て）子供や親子や、見て。嘔き出もん潰して。…遠まわり。

三人 は？

かなこ ホラ、焼きめし食べよう。もうお腹空いたわ

莊司 どうぞどうぞ

かなこ 莊司、店の中へ。

ひかる （吉田を引き留め）よろしくお願いします。ホンマにお姉ちゃん、二度目ですけど、二度目やから、

だから、もう、また

吉田 うん。またって、ね。わかって辛いしわかってるから、辛い事もあるし。うちも母親に今はもう僕67しかおらんようになって。だからまた寂しいとか寂しいとか、そんな思いさせたくないってずっと思ってるから。ちよつと違うかもやけど。

ひかる いえ

吉田 うん。でも。だから、またあんな思いさせたくないって傍おって思うのは、わかるから。またってな

あ。うん、わかってる。

ひかる、頭を下げる。ひかるの肩を叩き、吉田も中へ…

全員店の中に入ると、そこへ、日下が戻ってきて店に入ろうとすると…入ったそばから、全員がぞろぞろ出てくる。

日下 ん？え？なになに（押しやられるように公園の方へ）

皆、店内を気にしながらも、出てくる…が、ひかると千寿子だけいない。

日下 なに？なか、なに？

かなこ ひかると、千寿子

日下 ああ：

かなこ まさか（喧嘩で大事に）

日下 いやいや、そんな

皆、それぞれに店の方を見ている…心配になって、行こうとしたりやめたり。

パトカーの音…に、かなこが店に行きかけると、ひかるが出てくる。

莊司 無事！？

ひかる ま、ええ。はい。

かなこ あの子は？

ひかる 出て行きました、表から。

莊司 表。いっつも裏からやのに。

ももよ 遠まわり…。

かなこ え、なんで、どのタイミングで、なんていうて

ひかる ま、ちょっと喋って。結婚の事は知ってて。

かなこ サイバーポリスやからな

ひかる 子供の話になって

かなこ え、言うたん

ひかる （うなづく）

かなこ （少し声を潜め）出来へんって

日下 え

ひかる ほんなら出て行った

かなこ なんて言うて

ひかる 何もいわんと

かなこ どんなりアクションやったんよ、あの子、表情とか

ひかる いや、顔見えんかった。すぐでていったから。…それって

男たちが千寿子の事を勝手に想い同情し、神妙な表情でうなだれる…のを見て、思わず笑ってしまふ、かなこ。

笑ったかなこを、男たちは不思議そうに見る。

その時、パトカーの音がけたたましくなる。近い。

莊司 何やら、えらい…

ももよ、様子を見るべく、店の中に。

吉田の電話が鳴る…吉田、画面を見て切る。

かなこ ええの

吉田 うん

誰も口を開かない中、ももよが店から出てくる。

ももよ み、店の前に近所の人らが

ひかる なに

ももよ 今、その、子供叩いた犯人が、自首してきたそうです。

かなこ 自首

莊司 いま

緊迫したムードの中…

日下 俺ちやうかつたやろく？

かなこ そういうとこ

日下 え

かなこ いまそれちやうから

ももよ 女の人やって。

一同 え

ももよ 犯人、女の人って

犯人は、女の人…その言葉に、また口を閉ざす一同。

犯人は、女の人。今、自首。

かなこ、あまりのことにテーブルに座りこむ。

最初呑み込めなかった他の男たちも、かなこの様子に、犯人を思う…まさか…。
かなこ、テーブルに突っ伏す。

ひかるもベンチに座り、頭を抱える。

吉田は何も言えず、かなこの向かい側の椅子に座る。

日下もシーソーに座り込む。小野も、荘司も黙ったまま。

ももよも、その場に立ち尽くしている。

誰も声がかげられず、お互いに見たり、見られなかったり。

そんな中、千寿子が奥の道から姿を現す…一同に外で介している人々を見てちよつと驚いている…と、その千寿子に、ももよや小野、荘司がまず気づいて固まる。

千寿子、ジェスチャーで荘司に「どうしたん？何あったん??」と聞きつつ…

公園の端にすたすと向かって歩いて行く…さすがに日下も、そして吉田、かなこも気づいて、声も出さず、その千寿子を見ている。

千寿子、公園の端に置きっぱなしになっていたヨガマットを抱えて、その視線にようやく気付く。そして…

千寿子 忘れとったわけちゃうで、置いててん。

再びテーブルに再び突っ伏すかなこ…皆が驚いている中、肩を振るわせ…

顔を上げて、大笑い。周りもつられて笑いし…いつしか大笑いに。

そんな周りを見て、一人わけがわからず、イライラする千寿子。

でも皆はそんな事お構いなしに、笑い続けている。

犯人はいる。

事件は確かに起こった。

でも、ここにいる人の中にはいなかった、そうじゃなかった。

一時は大笑い。色々あるけど、大笑い。そんな今日。